

計画の体系の考え方について

以下の流れで体系を整理する。

①現状に対する評価（農業者・市民意向、現施策評価）、検討課題の抽出

（資料5にて整理）

- 農業生産・農産物流通・農家経営
- 農業者担い手・後継者・援農
- 農地の保全と活用
- 農業を通じた交流

の観点で現状、検討課題整理

②社会的動向等から方向性の整理

○ウクライナ危機などの情勢の影響から化学肥料、飼料、燃油等農業生産資材の高騰。それに対し、新型コロナウイルス感染症による働き方の変化、都市の「農」への価値認識の高まり。

○都市における農地は「宅地化すべきもの」から「あるべきもの」へ方向転換、特定生産緑地制度の創設、都市農地円滑化法などの制度改正。農業・農地の多面的機能の発揮がこれまで以上に求められる。

○気候変動や生物多様性の低下などの環境変化に対して、「みどりの食料システム法」施行、生産から消費までの環境負荷の低減が求められる。

➡西東京市の農業・農地はあるべきもの、持続すべきものとして位置づけ

➡そのためには、産業振興としての農業はもちろん、生活環境、社会環境としての影響力を加味した、まちづくりの軸としての位置づけも意識し、経済・社会・環境のバランスの良い施策展開を行うことが求められる。

③将来像・基本方針の検討

【現行計画での将来像】

食の安心 みんなの健康 生活にうるおい ～住み続けたい農のあるまち・西東京市～

➡現在は農業によるまちづくりのあり方を示している。

西東京市の農業・農地保全のあり方としての将来像を考え方として付加することは考えられる。

【現行計画での基本方針】

① 食と暮らしを支える多様な農業を展開します。

② 多様な担い手が、生きがいややりがいを感じる農業経営をつくれます。

③ 都市の貴重な農地を保全するとともに、農地の多面的機能を発揮することで、市民生活に安らぎや潤いを与えます。

④ 市民、地域及び行政が一体となり、西東京市の農業を支える取組みを推進し、都市と農業が共生するまちをつくれます。

➡①農業生産・農産物流通・農家経営、②農業者担い手・後継者・援農、③農地の保全と活用、④農業を通じた交流の4つの方向性の設定は、普遍的な内容として、踏襲する妥当性が高いと考える。

➡加えて、持続可能な農業を目指すにあたり、経済・社会・環境の3つの軸により、産業としてのイノベーション、社会課題の解決にも寄与する農業のあり方、環境の視点から地域の風景や災害時対応、ゼロカーボン、エネルギー施策との連動も含めた方向性を提示する。

④体系の整理イメージ

4つの方向性と3つの軸により、以下体系を整理する。

(□:既存施策の継続展開 ■:新たな施策展開)

	経済	社会	環境
<p>(1)食と暮らしを支える多様な農業</p> <p>農業生産・農産物流通・農家経営</p>	<p>□農地面積が小さくても、稼げる農業の方策(直売所利用促進、公共施設等での販売機会の提供など)</p> <p>□市内産農産物の付加価値向上、新品目の導入の推進</p>	<p>■安定した販路の確保、販路を拡大する方策、規格外品等一時加工利用推進(食品ロスの削減など)</p> <p>□公共施設でのさらなる利活用の推進、近隣消費のニーズに応えた西東京市産の生産拡大(学校給食連携、地域・商店街連携など)</p> <p>□西東京市産農産物の周知・理解促進(めぐみちゃんメニューの推進、めぐみちゃんブランドの普及啓発など)</p>	<p>■環境に配慮した農業に取り組みやすい環境の整備</p> <p>□新鮮・安心安全の理解促進・PR</p> <p>■省エネ・脱炭素方策の推進</p>
<p>(2)多様な担い手が生きがいを感じる農業経営</p> <p>農業者担い手・後継者・援農</p>	<p>□意欲ある農業者への支援・資金的支援(認定農業者農業経営改善計画への支援、新たな支援策の調査研究など)</p> <p>□後継者・新規就農者育成施策の充実</p> <p>■農業者の技術、生産技術に加え販路との関係づくりや経営のスキルの継承</p>	<p>□多様な役割の援農ボランティアの育成・活用、マッチング機会提供</p> <p>□農業者同士、農業者と周辺住民の交流機会の創出</p>	<p>■農業の維持を担う(農ある風景を守る)農家の支援</p> <p>■環境負荷の低い農業の担い手支援</p>

	経済	社会	環境
(3) 農地の保全と活用	<ul style="list-style-type: none"> □担い手・後継者の圃場確保の推進(農地の貸借における仲介推進強化) ■農地保全・活用の新技術活用(農地パトロールのDx活用など) 	<ul style="list-style-type: none"> □防災の観点から農地の役割を發揮できる環境の整備 □農業体験・交流型施設の活用 	<ul style="list-style-type: none"> □耕作放棄地の適切な活用 ■ゼロカーボンに寄与する農地活用の検討 ■まちの中の“みどり”としての農地の役割を發揮(農業景観散策会など)
(4) 農業を通じた交流	<ul style="list-style-type: none"> □農業と異業種の連携検討 □市民農園、農業体験農園等の開設、増設へ整備支援の継続 	<ul style="list-style-type: none"> □体験イベントの充実による生産者と市民との接点づくり □農業・農産物への理解増進・情報発信 □農業を通じた子どもたちとの交流機会(食育等)の創出、充実(親子で野菜づくりにチャレンジ、めぐみちゃんメニューの推進など) □東大生態調和農学機構との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■SDGs、食品ロス対策といった社会的価値の高い取組みとしての地産地消策の検討 □緑のアカデミー事業の実施